

復興支援NPOが継続活動していくための9つの前提要件



経営コンサルティング
波多野事務所
代表

波多野卓司 さん

『世の中には、がんばりたくてもがんばれない何かの状況を背負い生きている人もいます。せめて今がんばれる者は、その人たちを支える責任がある』……復興支援に立ち上がったNPOの多くは、そのような思いに支えられてきたことでしょう。そしてバラバラになった地域での新しい共同体づくり、日々取り組んでおられます。

その再興は、永い目で見ると、『一人でも生きていられる＝助けあいで生きていく』という共同体をどうつくっていくか？という視点に行き着くように思います。

ではその『助けあいの共同体』が長く続いているケースでは、いったいどんな前提となる共通項が備わっているのでしょうか？

- ① やってはいけないことの厳格な基準（理念）が存在する
- ② 違う価値観の人たちが、ああでもないこうでもないと交わっている
- ③ 様々な世代の人たちが関わっている

- ④ お互いのことをみながよく知っている（コミュニケーションが密）
 - ⑤ 泣いたり笑ったり怒ったり喜んだり、日々、あれこれ事件が起きている
 - ⑥ ときに怠けても、許されるスペース（キャパシティ）がある
 - ⑦ みなで乾杯する『ハレの日』がある
 - ⑧ どれほど小さくとも、一人一人が自分の役割／舞台を預かっている
 - ⑨ さまざまな『プロ』が存在する
- これらを大括りで言うと、『組織の多様性』ということになるでしょう。

けれど、組織は『硬直化する』という宿命の病を抱えています。だからこそ、日々の現場で、これら『9つの前提要件』をいつも胸の片隅に置きながら、トラブルの修復を繰り返す。その道程でこそ、『縦横斜めにつながった多様な共同体』は、根をはるように、強く育っていくのでしょ。

平成 29 年度宮城県 NPO 等の絆力を活かした震災復興支援事業

『復興』の先を考えるミーティング in 石巻・気仙沼



～SDGs で見るわたしたちの地域社会～

石巻会場 日時：2月15日（木）13：30～16：30
会場：石巻専修大学4号館 4102 教室・4103 教室

気仙沼会場 日時：2月19日（月）13：30～16：30
会場：気仙沼市役所ワン・テン庁舎2階大ホール

東日本大震災からまもなく7年。

すでに震災復興は、一過性のものでなく、長期的視点を要する課題へと変わっています。

このたび企業、NPO、コミュニティなど、地域の担い手同士がともに『復興』とその先を考えるための交流会を開催します。

長期的視点で地域を考えるツールとして、SDGs についての講演と事例紹介もあわせて行います。

当日はみやぎソーシャルビジネス支援ネットワークによる相談対応も行います。ご希望のある方は参加申込時にその旨をお伝えください。相談内容は以下の内容を予定しております。

【各種助成金、組織づくり、NPO 法人設立手続き、許認可の取得、資金調達など】

※相談内容については、都合により変更となる場合がございます。その際は、後日対応いたします。

【プログラム】

・はじめて学ぶ SDGs ・

新田 英理子 さん

一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク 地域連携アドバイザー

・SDGs と地域協働を理解するための事例紹介・

〈石巻〉 橋本 大悟 さん（一般社団法人りぶらす 代表理事）

千葉 裕貴 さん（社会福祉法人中山福祉会 常務理事 / NPO 法人中山街づくりセンター 理事）

〈気仙沼〉 戸野 憲一 さん（株式会社デンソー 新事業推進部セキュリティ事業室 担当課長）

金藤 克也 さん（一般社団法人さとうみファーム 代表理事）

・『復興』の先をともに考える交流会・

お申込み、お問合わせはお電話で

認定 NPO 法人杜の伝言板ゆるる TEL 022-791-9323

主催：宮城県 共催：石巻市・気仙沼市



Vol.1 は県ホームページで公開しています

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kyosha/fukkoing29.html>

復興ing NPO等の震災復興取り組み事例集

2018.1 vol.2

発行：宮城県環境生活部共同参画社会推進課
〒980-8570
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
TEL：022-211-2576

企画・編集：認定特定非営利活動法人 杜の伝言板ゆるる

〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡3-11-6 コーポラス島田B6
TEL：022-791-9323 FAX：022-791-9327
E-mail：npo@yururu.com URL：https://www.yururu.com/